

「平成 25 年度 乳児保育研修会」報告書

【期 日】 平成 25 年 11 月 27 日（水）

【会 場】 ロイヤルチェスター佐賀

【主 催】 佐賀県保育会

【参加者数】 134 名

【内 容】 研修 1 「基調報告」

講師：田中 豊博氏（佐賀県保育会会長）

研修 2 「乳児保育の重要性と保育者の役割」

講師：井桁 容子氏（東京家政大学ナースリールーム主任

東京家政大学及び短期大学部非常勤講師）



研修 1. 「基調報告」

講師 田中 豊博氏（佐賀県保育会会長）

保育制度について

1. 保育所と新幼保連連携認定こども園の公定価格
2. 保育所職員の処遇改善について
3. 短時間保育について



研修 2. 「乳児保育の重要性と保育者の役割」

講師 井桁 容子氏（東京家政大学ナースリールーム主任

東京家政大学及び短期大学部非常勤講師）

○大人に困っている子どもたち

- ・自分の思いを正しく理解してもらっていない→困っている
- ・人と同じ事ができない→効率が悪い？
- ・大人の評価が気になって仕方がない

○さまざまな子どもたちの実態

- ・共有型しつけ⇒語彙力得点高い←考える余地、柔軟な対応
- ・強制型しつけ⇒語彙力得点低い←指示的、過度な介入、勝ち負けにこだわる

○日本の子育ての現状

- ・結果を急ぐ大人たちに、失敗をさせずに育ちを急がされた大人たちが親になっている
- ・社会性やコミュニケーション力は、自分の思いを押し殺すことだと感じている若者たちは、人との関わり合いに自信がない



子ども一人ひとりの育ちを面白がって答えを急がない専門家の存在が重要

○今のお母さんたちだけが子育てに悩んだわけではない

変わったのは周囲の人たち…助ける空気がなくなってしまった

地域の人と繋がっていけない

○20世紀の大人たちがめざしたもの

- ・便利・手軽に・簡単に・いつでもだれにでも
- ・同じものが早く手に入る・生産性

子育ては真逆の行為

○人間が便利と感じ作ってきたものは

- ・自分の体の代用品
- 手足→道具・足→乗り物・
- 考える→コンピューター

感度が鈍くなった

○重要な他者の存在の意味

- ・いつでも自分の思いは、聞いてもらえるという信頼
- ・ありのままがいいんだという安心
- ・自己肯定感
- ・やってみようという意欲
- ・失敗してもへこたれない逞しさ
- ・信頼して待つ根気
- ・優しくされて育った優しさと思いやり
- ・自分も誰かにとっての重要な他者になろうとする

○知識よりも知恵のある人が欲しい！（ある大手企業の人事担当者の言葉）

- ・どうしてもやりたいという意欲が工夫と知恵を生む
- ・自分にない感性を持つ友だちによって得る知恵もある
- ・こんな事を考えついた子どもは出世すると言える大人が必要

○子ども時代の失敗が大事！⇒失敗したことを次に生かせる知識に変える大人の存在が重要

○保育者の質、保育の向上は、足し算ではなく掛け算

子どもへの信頼のまなざしがなければ、いくら経験しても勉強してもゼロになる

○ビデオ

「考える力・意欲・関わる力が育つ保育」

～かなちゃんの0歳から3歳までの成長記録より～

◎効果及び評価

乳幼児期は、食欲・睡眠・興味など子どものサイクルに合わせての保育が大切であり、保育が作業にならないよう「待つ保育」を心掛けていかなければいけないと痛感する。「花や虫の成長は待てるのに、どうして人間の成長は待てないのか？」の言葉が心に残る。



(文責：鳥栖市立保育所小鳩園 横尾美由紀)